

《原 著》

低強度運動負荷を併用した ATP 負荷心筋シンチグラフィにおける 血行動態と肝集積に関する検討

鈴木 禎* 今井 嘉門** 中島 崇智** 柴崎 匡樹**
諸澄 邦彦** 宮野 佐年*

* 東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学教室

** 埼玉県立循環器・呼吸器病センター

要旨〔目的〕十分な運動の不可能な症例に ATP 負荷心筋シンチグラフィを施行すると、血圧低下および肝臓への高度なトレーサ集積を頻回に認める。これを軽減するため、低強度運動負荷を併用した ATP 負荷を提案し、有用性を検討した。〔方法および結果〕1) 血行動態は 34 例で検討した。30 mmHg 以上の収縮期血圧の低下は、ATP 単独負荷 58.8% (10/17)、運動併用 ATP 負荷 5.9% (1/17) であった ($p < 0.05$)。2) ^{99m}Tc 標識心筋血流製剤投与後、正面画像で肝臓および心臓の ROI カウントを 38 例で測定した。60 分後の肝臓 ROI カウントは ATP 単独 29.0 ± 10.7 ($n = 11$)、運動併用 ATP 負荷 21.4 ± 5.2 ($n = 13$) および運動負荷 18.3 ± 4.5 ($n = 14$) で、運動併用 ATP 負荷および運動負荷は ATP 単独より有意に低値であった ($p < 0.05$, $p < 0.001$)。〔結論〕低強度運動負荷併用 ATP 負荷は顕著な収縮期血圧低下およびトレーサの肝臓集積を抑制した。

(核医学 37: 189–197, 2000)